



▲ハロウィンパーティで仮装し、記念写真に納まる参加者ら（10月31日、市役所で）

会長あいさつ

洲本市国際交流協会長
琴井谷 隆志



みなさん、こんにちは。

洲本市国際交流協会（SIA）第2代目会長を拝命しました琴井谷隆志でございます。

洲本市国際交流協会が発足してもうすぐ4年目を迎えようとしています。当協会では、市の姉妹都市

の訪問・受入のほかには外国語講座の開設、外国文化を理解するための事業などを行っています。近年、交通・通信手段の急速な発達に伴い、地球規模での人、経済、文化などの交流が増大しており、ますます国際交流の重要性を感じています。私たちを取り巻く経済状況は非常に厳しいものがありますが、洲本市の中でどのように国際交流、国際貢献が出来るのかを会員それぞれが考えを出し合い、一緒に協会の活動を行えたらと思います。今後とも当協会へのご支援をよろしくお願いいたします。

洲本市国際交流協会総会

平成21年度の当協会の総会が5月30日(土)に市内のホテルで開催され、琴井谷会長のあいさつに続いて6議案が提出され、すべての案件が原案のとおり承認されました（下記参照）。

今年度は昨年度に引き続き市内在住の高校生をハワイ島ヒロへのホームステイ派遣、会員同士の交流会、3年ぶりとなるハワイ島からの訪問団の受け入れ、外国の文化や風習を学ぶイベントの企画など、新しい事業が展開されました。

事業概要は次のとおり

■総会で承認された議案

- 議案第1号 平成20年度洲本市国際交流協会事業報告について
- 議案第2号 平成20年度洲本市国際交流協会会計決算について
- 議案第3号 洲本市国際交流協会役員会の承認について
- 議案第4号 平成21年度洲本市国際交流協会事業計画について
- 議案第5号 洲本市国際交流基金の取崩しについて
- 議案第6号 平成21年度洲本市国際交流協会予算について



ビックアイランド(ハワイ島)からの贈り物

7月22日から28日まで『ハワイ島親善訪問』『青少年ホームステイ・ハワイ島親善訪問』が行われました。今回の訪問団は協会員7人を含む18人。どのような出会いがあったのでしょうか。

1日目

ドッキドキ! ホストファミリーとの出会い

出発当日、市長や協会員、家族など多くの皆さんに見送られて元気に出発した一行はヒロに向かう飛行機の中でこれから出会う友、未知の体験に心を躍らせました。

ヒロ空港到着ゲートで私達を出迎えてくれたのは東ハワイキワニスクラブのメンバー。東ハワイキワ



ハワイ風と和風のポストカードの出来上がり

ニスクラブとは民間の奉仕団体で洲本市と交流を続けているヒロ高校のキークラブの活動を支援している団体。

キワニスメンバーの案内で、2008年12月に就任したケノイ郡長と面会した高校生らは郡長から自身の経験を聞き、何でもチャレンジすることが大切だということを教わりました。これから始まるホームステイでハワイの文化、習慣を知り、滞在期間中は何でも挑戦していくことを心に留めた高校生らは向かったヒロ高校で、ホストファミリーのほか、ヒロ高校の課外活動クラブを実施しているキークラブの生徒、キワニスメンバーの歓迎を受けました。高校生は早

速、ホストファミリーと一緒にポストカードの制作に取り掛かりました。

夕刻に近づくと、キワニスメンバーがそれぞれ持ち込みで用意してくれた自慢の手料理（ハワイアンフード）を振舞ってくれました。高校生たちには初めて食べるハワイアンフードの味はいかがだったのでしょうか？「ポイ（タロ芋を蒸して練り



ハワイアンフードたっぷりのフラダンス

つぶして発酵させた古代ハワイアの主食）は酸味が強く食べられなかった。」や「ポキ（マグロの刺身やシーフードをハワイ産の塩、海藻、ネギ、タマネギと混ぜ合わせたもの）は日本にあるマグロ漬けと似ていて食べやすい。」「ハウピア（ココナッツミルクに砂糖を混ぜてゼラチンで固めたデザート）はおいしい。」など初めてのハワイアンフードを味わいました。歓談中にはヒロ高校キークラブの元代表であったクリスティンがフラダンスを披露し、会場を優雅で和やかなハワイ独特の雰囲気に変えてくれました。初日は長時間の飛行機での移動、ホストファミリー・ハワイの食・伝統文化との出会いなど慌しく過ぎていきました。

2日目

見て・触れて・感じた ヒロの町

高校生はヒロ高校生と一緒に学校やヒロ市内の公共施設を訪れ、ヒロの町を散策。高校生らはヒロ図書館前でハワイでは持ち上げることが出来たら天



大王を目指してナハストーンの持ち上げに挑戦

下を制すといわれる約3.5tの石『ナハストーン』を持ち上げることに挑戦しました。数人掛かりでもビクとも動かないこの石を少年が一人で持ち上げたという伝説があります。持ち上げることができたその少年は後にハワイの王様となったカメハメハだったそうです。ハワイの歴史に触れた瞬間でした。

その後一行は、ヒロの町が受けた2度の津波被害を風化させないために、ボランティアの皆さんで運営されているツナミミュージアムを訪問。ミュージアムの中の壁には昔の写真が貼られていたり、津波が来る前のヒロの町を再現した模型があったりと、津波の恐ろしさを物語る資料が数々展示されていました。その他に、カメハメハ像や度々氾濫を起こして町に被害を与えたワイルク川などを訪れ、ヒロ高校キークラブの顧問であるマスハラ先生より説明を受けました。

市内散策の後、ヒロ高校に戻ってきた高校生は、魔よけの意味があるとされるティーリーフを使って、ヒロ高校の生徒に教えてもらいながらレイ作りやフラダンスに挑戦。フラダンスでは一つ一つのフラの動きの意味を教わりながら、音楽に合わせて練習しました。

ダンスで汗をかいた後、ヒロ高校のプールへ。設置されているジャンプ台からの飛び込みを最初は怖がっていた高校生も、ホストファミリーに促されて一度挑戦してみると、飛び込む前のドキドキ感と飛び込んだ後の爽快感を得たくて、時間を忘れて何度も挑

戦していました。ハワイは夏休みということもあり、高校の授業には参加が出来なかったものの、プールを使って交流することでハワイの学校をちょっとだけ体験できました。



友達の力を借りてレイを制作中

2日目は町中を歩き、歴史を学び、ダンスや水泳などもした盛りだくさんな1日となり、あっという間に過ぎていきました。

3日目 ハワイ島の大自然を満喫

ハワイ島を代表する観光名所・ハワイ火山国立公園を訪問。参加者らは雄大な公園で、今なお噴火を続けるキラウエア火山を見学したほか、溶岩が流れ出した後にできたラバチューブ（溶岩トンネル）を歩きながら自然の変遷を感じました。

その後、車で約1時間半の山道を登り標高2,800mのオニズカセンターへ。ハワイ島マウナケア、ハレアカラ山頂、ヒマラヤ山中にしか生息しないと言われ、20年に一度だけ花をつけて一生を終える希少植物『銀剣草』を探すため、同センター裏にある鳥の保護のために柵で囲われたバードアイランドを散策。銀色の剣をまとい、茎を長く伸ばした先の紫の花を発見することが出来た参加者らは「20年に一度しか咲かない花が見られるなんて、私たちは幸運かもね。」と話していました。

また、サンセット鑑賞をするために小高い丘にハイキング。青空が夕陽に姿を変える頃、空のキャン



20年に一度の花を咲かせた銀剣草

バスには虹色のグラデーションが広がりました。同じサンセットでも、日によってピンク色だったり、オレンジ色だったり毎日違っていて、見学した日は青紫色。足元に広がる雲海にダイナミックに沈んでいく太陽は圧巻で、何ともいえないスケールの大きさを感じ、ここでは訪れたものは荘厳なスペクタクルに息を潜め





▲ハレマウマウ火山からあがる噴煙を背に
笑顔の参加者ら
▲マウナケアから見下ろした雲のじゅうたん

て見入り、シーンと静まり返った中でカメラのシャッター音だけが響きました。辺りが暗くなると、満点の星空鑑賞が始まります。背伸びをすればつかめそうな星はそれぞれが違った輝きを放ち、目を離せば一瞬で流れ落ちる星たちの世界を写真で残せないのはとても残念でしたが、この世界を心に留められるのはここを訪問した者への特権なのかもしれません。ハワイ島でしか経験できないことが多く詰まった一日となりました。

4日目 ダンス♪ダンス♪ダンス♪ 賑やかウェアウエルパーティ

高校生は、夕方まではホストファミリーと一緒に大型ショッピングセンターに出かけたり、友人の家に集まってダンスや日本でも流行っているWiiを使って一緒にテニス対決をしたりとホストファミリーとの時間を楽しみました。



洲本の生徒とハワイの生徒が描かれたケーキ

協会員はキワニスメンバーとハワイ島にあるプラネタリウムを見に行ったり、メンバーお勧めのチョコミントクッキーを探しにスーパーへ買い物に出かけたりと交流を深めました。

夕方にはハワイ郡関係者、ホストファミリー、キワニスクラブ、キークラブ、約100人がヒロ高校の食堂に集まり、4日間の滞在を振り返り、フェアウェルパーティが開かれました。パーティではメンバー



会長を先頭に阿波踊りをする参加者



何度も練習したフラダンスを披露する高校生

のお手製料理のほかに、洲本の生徒とハワイの生徒との友情がこれからも続くようにと願いをこめて作られたケーキが用意されていました。高校生らはケーキに込められた思いを確認し、自分達をイメージして書かれたケーキを嬉しそうに食べていました。

パーティのクライマックスは高校生がそれぞれ感じ、体験した4日間を英語でのスピーチ。訪問前には戸惑っていた生徒も、当日になれば何のその、みんなが英語でスピーチし、会場から大きな拍手が贈られていました。中には笑いを誘う上級テクニックの持ち主もいました。スピーチの他に、キークラブの生徒と滞在中に練習したフラダンスや阿波踊りの披露、「TSUNAMI」や「Hey Jude」を歌い、最後の夜は賑やかに終わりました。

5日目 またいつか…… 笑顔のお別れ

別れの朝、ヒロ空港で見送られた高校生は、搭乗手続きが進むにつれ、ホストファミリーとの楽しかった思い出を振り返ったり、再会を約束したりと、最後まで別れを惜しみました。たった5日間でしたが、高校生たちにとって異国で過ごし、友人と数々の思い出を作ったことは、彼らにとってかけがえのない財産になったはずです。彼らの別れを見届ける協会員は、彼らの中に芽生えた友情を大切にしながら、いつかまた再会してほしいと願っていました。

報告会 帰国後の高校生

帰国1ヶ月後、高校生それぞれが市長と協会員に報告を行いました。そこで、「事業に参加することを迷ったが行って来て本当に良かった。」「築いた友情の絆をこれからもっと深めたい。」「もっと英語の勉強に励みたい。」など、協会としては大変うれしい意見が聞かれました。この気持ちがこれからも続いてくれ、このハワイ島訪問が彼らの将来に良い刺激となったことを会長を始めとする協会員は願ってやみません。これらも協会としては、ホームステイ事業を続けていきます。



市長へ報告する参加者

参加者からのお便りコーナー

今回、青少年ハワイ島ホームステイ派遣事業に参加した高校生 11 名の代表となった中村海人君（洲本高校・2年）の体験談を紹介します。彼はヒロ滞在中に多くの友人を作り、訪問団が洲本へ来訪した際にも洲本高校で積極的に交流をしました。今も交流が続いているそうです。



勇気をもって

中村 海人

このハワイ島親善訪問は、僕にとって貴重な経験となりました。

ハワイ島にはいいところがたくさんありましたが、その中でも自然が気に入りました。淡路島では考えられないほどの大きな木があり、その雄大さに驚きました。また、マウナ・ケア、スターゲイジングで見た星空が忘れられません。空一面に広がる星は、今まで見たことがないほどきれいでした。ハワイの気候は日本とは違い、湿気が少ないからか、苦にならない暑さでした。



ジャガー・ミュージアムの地震計の前で
ハワイの友人らと

一番の思い出は、たくさんの友達ができただけです。ヒロハイスクールのみなさんは、親しみやすく、積極的に話しかけてくれたので、すぐに仲良くなれました。そのうちに、自分からも積極的に話しかけられるようになりました。ハワイに行く前の目的は自分の英語が通じるか試すことだったので、思っていた以上に通じて嬉しくてたまりませんでした。外国の人と英語で話すことは、こんなにも楽しいんだと発見することもでき、自分もヒロの高校生に影響されて陽気な性格になったような気がします。また、

「シャイは損だ。」と思うようになりました。なぜなら、シャイしていると人との出会いが少なくなるからです。

大変だったことは、ホームステイが一人だったことや、ホストスチューデントが女の子（メーガン）だったことです。何もかも一人でしなければならず大変でしたが、良い経験となりました。まず、ひとりで泊まることで、日本語から遠ざかることができ、英語漬けの日々を送ることができました。前よりもっと英語に興味を湧きました。メーガンやお母さん、お父さんとたくさん話すこともでき、本当にこの家族でよかったなと思いました。日本に帰りたくなかったと思うほどでした。

何もかもが初めてづくしでしたが、すべてが僕にとって刺激的で、この企画に参加してよかったと思います。滞在期間が、短すぎると思いました。また、日本について知らないことが多すぎると、改めて感じました。これからは、英語をより一生懸命勉強して、日本についても学んでいきたいと思っています。そして、またヒロに行って、もっと日本のことを教えたいです。



ホストファミリーと

3年ぶり!!ハワイ郡から訪問団

10月2日から6日の4泊5日間の予定で、ハワイ島ヒロからの訪問団を受入しました。訪問メンバーは当協会がハワイ島を訪問した際にお世話になっている東キワニスクラブの7人と高校生の課外活動グループ“キークラブ”の11人。大人は夢泉景に宿泊し、高校生は市内高校生宅にホームステイしました。ホストファミリーは、協会の事業でハワイ島を訪問し、交流したことがある生徒。今夏に訪問した生徒が、ハワイ島訪問の際に滞在した家庭の生徒を受け入れるなんていうパターンもあり、わくわく?ドキドキする5日間が始まりました。

10月2日

welcome to Sumoto! Hilo Friends

関西空港の到着ゲートの前では、新調した歓迎幕を手にした協会員がそわそわしながら、今か今かと訪問団の到着を待っていました。到着したハワイの生徒は撮影タイムを始めるなど歓迎幕を見て感激しました。



歓迎幕を手には訪問団を迎える協会員

洲本に到着すると、ハワイの生徒はホストファミリーと対面。夏に仲良くなっていたからでしょうか、お互いが手を振ったり、抱き合ったりする生徒や、初対面で緊張しながらも一生懸命にコミュニケーションをとろうとする生徒もいました。ホテルに向かった大人たちとは別れ、生徒はホストファミリー宅へ向かいました。

10月3日

淡路島をめぐりいっぱい満喫

この日は、海上ウォークに花さじき、北淡震災記念館、ウェルネスパーク五色など淡路島半周めぐりをしました。心配していた天気も問題なく、予定していた明石大橋10周年記念事業『海上ウォーク』に参加しました。渡り始めると、足下には見れば吸い込まれてしまいそうな青い海。前に進むことが出来なくなりますから、高所恐怖症の方は決して足下を見ないでください。約4kmを1時間半程かけて歩いた参加者が、ゴールに到着した頃には、お腹はぺこぺこ、足はくたくたになっていました。

明石海峡大橋の全体を眺めながら昼食を取れるよ



笑顔で海の上を散歩中

うに淡路SAに寄ったハワイの生徒は、ホストファミリーに教えてもらいながら、自動券売機で食券を購入し、ソースカツ丼やカレーなどを注文していま

した。淡路SAを後にして、向かった花さじきでは鮮やかな花々が咲いており、花畑でジャンプして記念撮影を行いました。その後、生徒らは北淡震災記念館で地震により建物が崩れ、炎があちこちで上がる映像をみて、自然の恐ろしさを再確認。館内に設置された震度7のゆれを体感し、「揺れ始めた時はビックリして声も出なかった。」と話していました。また、歓迎会が行われるウェルネスパーク五色夢工房に向かう道中、生穂の秋祭りに遭遇、下車して、だんじりを見たり、綿菓子を買ったりと秋祭りを見学しました。

夕方には夢工房で歓迎会の食事となるうどん作りに挑戦。指導員のもと、こねたり、踏んだり、伸ばしたり。最後は重要な切る作業。それぞれが同じ太さになるようにと慎重に切ったうどんの出来上がりは歓迎会のお楽しみとなりました。

協会員やホストファミリー、市長、副市長が参加し、いよいよ歓迎会がスタート。始めに、ハワイ郡長、キワニスクラブ会長からの親書を柳市長が受け取り、柳市長からハワイ郡長へは姉妹都市



親書の交換

提携10周年の記念にあたる来年にハワイ島を訪問する予定であると返し、友好を確かめました。

お待ちかねの食事には、名物の鯖のタタキ、お寿司、揚げ物などおいしい料理が並びました。参加者お手製うどんは、少々太さのばらつきはありましたが、しっかりこねられ、踏まれているからでしょうか、コシがあるおいしいうどんでした。

お腹も満たされたところで、日本の伝統である和太鼓の演奏が始まりました。力強い太鼓の響きを聞いた後、ハワイの生徒も挑戦。ハワイで和太鼓のグループに所属している生徒もおり、かっこよくバチを振る様子に会場から大きな歓声があがりました。



迫力のあるバチさばきを披露する生徒

あがりました。

また、日本の歳末の風物詩である餅つきも体験。日本人でも杵と臼を用意して餅つきをする機会は少なくなっているためハワイの生徒はもちろん、会場のみんが楽しみました。餅つき名人達(!?)が、蒸したもち米をつぶして、つきやすいようにならし



慎重にうどんを切るハワイの生徒



初めてのもちつき体験中

てくれました。ハワイの生徒は杵がぐらついて、餅ではなくて臼をついたり、構えが大きすぎて観客に杵があたってしまうのではと、冷や冷やする場面も多くありましたが、「ペタン」「ペタン」と杵を振り下ろす度に「よいしょ」「よいしょ」と掛け声があがり、みんながにこにこ笑顔になるくらいおいしい餅がつきあがりました。

おいしいご飯と日本の伝統も体験した歓迎会は参加者にとって楽しい晩餐となりました。

10月4日

生徒は家族とゆっくりホストファミリーデー & 協会の交流

生徒達はホストファミリーと、パルシェでお香体験をしたり、回転寿司を食べたり、買い物に出かけたりと楽しんだようです。

キワニスメンバーは協会員と線香作り体験や花の展示会を見学。ハワイではないという100円均一ショップに立ち寄ると、「安いね」「これお土産にいいわ」などと言いながら、空のかごにどんどん商品を入れていきました。日本に来て100円均一ショップに立ち寄ることを楽しみの一つにしているそうです。夜には協会員とキワニスメンバーの交流会が行われました。今までに訪問したことのある方も集まり、久しぶりの再会を楽しみました。会場では洲本市がハワイ島を訪問した時のスライドショーが行われたり、歌を歌ったりと、あっという間に時間が過ぎていきました。



弦のはじき方を教える生徒はホストファミリー(上)
お抹茶の飲み方を教えてもらっています(下)

10月5日

洲本高校へ体験入学 & サプライズ付のフェアウェルパーティ

生徒達が一番楽しみにしていた洲本高校体験入学の日。参加した書道の授業では、書道体験は初めてという生徒が多く、クラスの友達に墨の刷り方や筆の持ち方を教えてもらいながら、先生が書いてくれた手本を参考に練習に励みました。手本はそれぞれ自分の好きな文字で、ミドルネームや興味のある言葉など様々。ハワイの生徒は半紙の上に手本の文字を書き、文字の周りにはハートや太陽など絵を描くなど、日本文化を理解しながらも自分色を半紙の上に表現していました。

また、化学や生物の授業では、英語と日本語でコミュニケーションをとりながら実験をし、保健体育の授業はハワイの生徒の強い希望でフラダンスに変更。ハワイの生徒達はハワイより持参したアロハ柄の布を身にまとい、ウクレレの音楽と共に踊り始め



ミドルネームは静江です。よろしくね！

ました。始めて見るフラダンスに日本の生徒は興味津々。ハワイの生徒から借りた布を身にまとった日本の生徒達は、フラダンスの1つひとつの動きの意味を丁寧に教えてもらいながらフラダンスを踊りました。何度も練習をして、最後にはクラスの生徒、顧問の先生も一緒に全員でフラダンスを踊りました。授業終了後も柔道に書道、茶道、邦楽などクラブ活動に参加し、学校生活を楽しみました。

翌日がお別れとなるこの夜には、フェアウェルパーティが開かれました。実はこの日はハワイの高校生ディロン君の17歳のバースデーで、協会員は彼に内緒でケーキを準備。彼は「異国で多くの人に祝福されて迎えた誕生日はいつもとは違ったものとなり、忘れられない洲本での思い出が増えました。」と話していました。パーティではハワイの生徒が過ごした4日間についてのスピーチが行われたり、阿波踊りやフラダンスをしたりと心も踊りそうなくらい賑やかで楽しいひと時をでした。



さよならパーティ

恒例！外国語講座 ～今年も実施しました発表会～

協会の恒例行事となっている外国語講座が9月から12月の3ヶ月間に亘り開催されました。講師には昨年、好評だった幹田さん（中国語）とパトリック（英語・上級）、ジョナサン（英語・中級）、8月に洲本に派遣されたカイリー（英語・初級）のALT 3人。毎年、当協会の外国語講座を楽しみにしている方も多く、今年も昨年からの受講生に加えて新たなメンバーを迎えて始まりました。

さて、授業が始まると先生の熱弁している声や、発音を練習する受講生の声などが教室から漏れてきます。もちろん楽しい授業なので笑い声も含まれています。先生の熱心な講義も5回目ぐらいに差し掛かる頃、異変が起きました!!廊下には歌声が漏れてくるのです。さて、皆さんは教室の中で何をしているのでしょうか!/? それは、外国語講座の閉講式後に発表するクラスの出し物を練習していたのです。

この企画は、外国語の歌を歌えるようになってもっと外国語を身近に感じたい、講座が終わったときに達成感が味わえるようになりたいという思いからスタート。講座の終了が近づくにつれ、練習に拍車がかかり、受講生からは「最近、英語・中国語部がコーラス部になった」などの意見も聞かれるほど熱心に練習していました。コーラス部と化した外国語講座

の閉講式と発表はどのようなものだったのでしょうか。

初級クラスは振り付けを織り交ぜて楽しく元気に、中級クラスは英語で紙芝居とギターを生演奏に合わせてクリスマスソングを、上級クラスはコーラス部ではと間違えてしまうほどの美しい歌声で、中国語クラスは鮮やかな衣装で華やいだ雰囲気の中で旅愁漂わせて歌っていただきました。それぞれクラスごとに工夫が感じられ個性が光る発表会となりました。



さて、来年の講座はどのような発表をしていただけるのか。今から楽しみにしています。興味があるけどちょっと不安……と思われる皆さん、どうぞご友人をお誘い、気軽に参加してください。お待ちしております。

外国のお祭りを体験してみよう！

～ハロウィンパーティ編～

欧米で10月31日と言えば？ 子供達が「トリック・オア・トリート」と言って近所をまわってお菓子をもたらう行事“ハロウィン”があります。当協会では初めての試みでハロウィンパーティを行いました。

ハロウィンはアイルランドに住んでいた古代ケルト人が大晦日（ケルト族の暦では、10月31日）の夜に死者の霊が家族を訪ねたり、その夜に精霊や魔女が出てきたりすると信じ、それから身を守るために仮面を被り仮装していたのが始まりだそうです。

ハロウィンパーティへの参加条件は仮装ということで、参加者はみな自慢のコスチューム姿。魔法使いに死神、カウボーイ、ハワイアン、中には甲冑姿の武将も!! ベストコスチューム大賞を狙ってでしょうか、参加者の衣装は手が込んでいました。

仮装して食事をするだけでも楽しいのですが、赤井部長のお手製ハロウィン紙芝居、ハロウィンクイズがありました。また、グループに分かれてグループの中の一人をトイレットペーパーでグルグル巻きにして、ミイラになる速さを競うミイラゲームをしました。簡単って思われるかもしれませんが、トイ



ミイラゲームに挑戦中

レットペーパーをすべて巻き切るのって結構疲れます。一番早く巻き終えたチームにインタビューをすると、「看護師として働いているので、包帯を巻くのは慣れているんです。包帯がトイレットペーパーに変わっただけですよ。」とのお答えが。優勝チームのミイラはきれいにしっかりと巻かれ完全にミイラになっていました。

初めての試みでしたが、研修部会の役員の方皆さん、参加者のご協力のもと楽しいハロウィンパーティを行うことができました。



ベストコスチューム大賞の受賞者たち

外国のお祭りを体験してみよう！

～春節祭編～

ハロウィンパーティが大成功に終わり、次に選んだお祭りは中国では一番大きなお祭りといっても過言ではない、旧暦のお正月を祝う春節。春節は中国では新暦の正月より盛大に祝賀され最も重要とされる祝祭日で、この時期の中国は爆竹が鳴り響き、祝い事には欠かせない龍や獅子が舞い踊り、大いに賑わいます。

春節をなんとか体験できないかと考えていたところ、2月14日のバレンタインデーに南京町で春節祭が開催されるという耳より情報が届きました。

春節を رفتりのバスの中から楽しんでいただくこと、中国語の講師・幹田顧敏先生に、出身地である上海の春節の様子や風習についてお話し



賑わう神戸南京町

いただきました。先生によると、中国では、起床後、年配者を敬う言葉を述べ、その後、近隣住民や知人と春節を祝う会話を交わしたり、正月料理を食べたりする習慣があるようです。一般に鶏や魚を食べるとされていますが、広大な中国の中では地方により正月料理も大きく異なります。北方では、大晦日の夕食を食べた後、一家全員が揃って日本の年越しそばと同じように、年越しの餃子を作り、午後11時から午前1時の間に食べるそうです。南方では数十種類の料理が出

ます。中でも、豆腐と魚は欠かせないものだそうです。なぜなら豆腐の腐と魚を発音すると「富裕（フーユー）」と同じ



京劇のメイクを施したパレード参加者

発音となり、裕福になるということを表すそうです。また、子供達は新しい洋服を着て、大人達からお年玉をもらうのでとても楽しみにしていること、年配の人にお年玉を渡す習慣もあるということをお話いただきました。そして、本日使える中国語を教えてください事前準備もバッチリ済ませ、南京町に到着しました。

参加者は北方の風習を真似て水餃子を食べるという条件で見学スタート。南京町広場を目指した一行の目に飛び込んできたのは、前に進むことも、後ろに下がることも出来ないほどの多くの人。その中をかき分け進んでいった先の南京町広場ステージでは、華麗勇敢な獅子の舞や優雅な舞踊が催され、京劇の衣装に身を包み、本格的なメイクで施した皇帝や艶やかに着飾った皇后の紹介が行われていました。「こんなに混雑しているなんて。」と言いつつも、参加者らは背伸びをしたりしてステージを見つめていました。

ステージ以外にもたくさんの催しがされていて、商売繁盛の神として知られる関聖帝君（三国志の英雄・関羽）を祀る祭壇を参拝して西遊記の人気者孫悟空と一緒に記念撮影をしたり、特賞の香港旅行を目指しポチ袋くじに挑戦したり、四柱推命の占いで今年の運勢を占ったり、中国方式で中国茶を楽しんだり、今晚の夕食にということで餃子を購入したりと各自それぞれ春節祭を楽しみました。

帰りのバスの中では、幹田先生から「日本に来て14年、こんな



参加条件の水餃子

に多くの人とお正月を迎えることができ嬉しかったです。」参加者からも「南京町に行ったことは何度もありますが、春節祭を体験したのは初めてです。」「幹田先生に習って、中国語を勉強していますが、南京町で話されている中国語のスピードが速くて聞き取れなかったのが残念です。もっと頑張つて勉強しようと思いました。」など、春節祭を体験して感じたことなどを発表しました。1日でしたが、中国のお正月を体験して、中国文化への理解を深めました。